

## <性に関する講話> (LHR: 全校)

12月13日(水)、レディースクリニック ICHIRO (長崎市三京町)の森一朗先生をお招きし、全校生徒・職員でお話を伺いました。

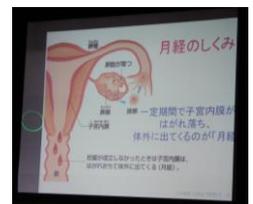


性感染症にはいろいろな種類があり、「性感染症かものサイン」があった時は「すぐに来てもらえればすぐ治ります」とのことでした。早めの受診が大切と強調されました。

避妊については「避妊をするのは主に男性だが、出来なかった場合に負担がかかるのは女性なので、よく考えてほしい」と話されました。具体的な方法や費用についても教えていただき、「産婦人科は基本24時間体制なので、緊急時にはどうぞ相談してください」と心強いお言葉をいただきました。

他にも月経のしくみと役割、妊娠のしくみ等について詳しく教えていただきました。中でも受精までの道のりを理解するための動画では、1つの精子を1人の人間に例え、いかに険しい旅を経て精子が卵子にたどり着くかを分かりやすく学びました。先生も「2億5千万分の1の確率で受精できた卵が無事に育ってひとつの命となっている、みなさんはとても貴重な子だ」と何度も伝えてくださいました。

最後に、生徒保健委員長の2-1尾崎佐経くんが「大切な命をくれた親に感謝し、これから頑張っていきたいと思いました。」と感想を述べてくれました。今回の講話をきっかけに、生徒一人ひとりが、自分の健康や性のことについてきちんと向き合っていってほしいと思います。



講話後、全校生徒が感想文を書きました。一部紹介します。

### 【生徒の感想より】

- 生理の話を書いて、自分は男だけど、知識をしっかりとって相手に接してあげるべきだなと思いました。(3年男子)
- 自分の体は自分で守れるよう、しっかり体調管理をしていこうと思いました。(3年女子)
- 相手のことも考え、性感染症を防ぐためにも性行為には責任を持たないといけないと思いました。(2年男子)
- 精子を擬人化した動画で「服を脱ぎ始めました。これはタンパク質です！」という言葉がとても分かりやすかったです。(2年女子)
- 自ら命を絶ってしまう中高生が増えている中、自分が2億5千万分の1の確率で生まれた「貴重な子」だと意識するのはとても大切だと感じました。(2年女子)
- 少しでも何かが違えば別の人格や顔の自分ができていたと思うと、今の自分が生まれてこられた事がうれしく思えました。(1年男子)
- 私が生きている事はすごいことだし、今の友達と会えたこともちょっとした奇跡だと思いました。いろんな人との出会いを大切にしたいと思います。(1年男子)
- 生理は体の中の要らないものを出していると思っていましたが、子宮のふとんをはがしていると初めて知りました。(1年女子)
- 産婦人科では妊娠のこと以外にも性感染症なども相談できると分かりました。(1年女子)